

航空公園を魅力あるものに 施設改善を求め

雨天でも使えるように野外ステージの改善を

屋根付きの野外ステージは雨天でも利用できますが、大雨の時などは大量の水が滝のように流れ落ちます。この問題も補修を検討すると答えました。

航空公園駐車場 2時間無料の表示を

所沢航空公園の駐車場は有料ですが、2時間までは無料です。このことを広く県民に周知すべきだとして、私は決算特別委員会の場で取り上げ、都市整備部は入り口に大きく表示することを検討すると約束しました。送迎等で中に入っても料金はかかりません。



10月17日から決算委員会がはじまりました。県民のみなさまの声に基づいて県政をチェックします。

契約事業者は6割へ

—水余りは明らか。ハツ場ダムは必要ない

決算特別委員会の私の質問で県営水道の工業用水契約事業者は30年前から6割へ、水道用水も5年間で受水量が1600万m³/年減っていることがわかりました。2015年には埼玉県も人口減に転じます。大型ダム開発は必要ありません。

和光特別支援学校の通学バス増発を

—1時間50分も??

特支学校児童生徒の多くはスクールバスで通っていますが、通学時間が1時間を超える路線が多数あります。所沢市からも児童が通う和光特別支援学校の場合、1時間50分かかるとの路線も…党県議団は一般質問でバス増発による通学時間短縮を強く求めました。

小児医療センターの新署名3万8千筆

県立小児医療センター（さいたま市岩槻区）の新都心への移転問題で、存続を求め、地域のNICUや小児救急医療体制整備を求める新しい署名が10月7日3万8千筆提出されました（患者家族会の署名は10万筆提出済み）。地元も患者家族も納得はしていません。



期待しています

県道東京狭山線に自分の土地がかかり、商売にも影響するようなことが起きて困っていたところ柳下さんに相談したら100%うまくいきました。ありがとうございます。
新富ゴルフプラザ 坂東進

東川の護岸が豪雨で崩れ、埼玉土建所沢支部に相談したら「川のことは柳下さんよ」と言われ、相談しました。川越県土整備事務所の方がすぐ現場を調査に来てくれて、11月から工事が始まることになりました。
北野2丁目 北見昇平

やぎした礼子



東北福祉大学社会福祉学部卒。医療ソーシャルワーカーとして所沢診療所勤務。所沢市議（2期）を経て埼玉県議（5期目）。党県議団長
ブログ <http://yrblogjcp.blog39.fc2.com/>
Email: r.yagishita@y8.dion.ne.jp



「柳下さんは狭山茶や農業を守るためにいつも県議会でごんばってくれて心強く思っています」
日比田 見沢直保

埼玉県議会議員

やぎした礼子の県政だより

県議会 9月定例会特集 発行 2013年秋

日本共産党埼玉県議団

〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-15-1 埼玉県庁内
TEL048 (824) 3413 FAX048 (825) 1048
<http://jcp-saitama-pref.jp/>



小さいのちを守りたい

小児・周産期（赤ちゃんと母体）医療の確立を

「小児救急医療体制の確立」を公約に県議として再選していただいてから6年。地元所沢市の市民医療センターでは小児救急24時間365日の体制整備が進んでいます。県内NICU（胎児や

未熟児の集中治療床）は50床も増えました。一方で西埼玉中央病院の周産期医療がストップしています。まだまだ、やることは山積み、がんばります

西埼玉中央病院分娩予約を開始

昨年8月新生児専門医の退職により、周産期医療が休止していた同病院に産科医確保のめどが立ち、分娩予約が再開されます。同病院はNICU6床を有し地域周産期医療センターとして、西南地域のリスク出産の未熟児や新生児を救ってきました。

月10件程度の分娩予約は可能となりますが、まだまだ周産期医療機関としての再開はめどがたっていません。私は、県決算特別委員会で再開を強く求め、県は「小児科医確保めどがついている。新生児専門医の確保に全力をあげる」と答えました。

根本には埼玉県の医師不足があります。医学部の新設、研修医の確保、県立医局の設立などこの問題の打開に全力を注ぎます。

教育現場を萎縮させる 県議会の介入は直ちに中止を

「学校現場の自主性を尊重し、教育環境整備に全力をあげる決議案」を提案

埼玉県議会は、検定に合格した高校日本史教科書の記述の一部を問題視し、各高校の採択結果を尊重し同教科書を採択した県教育委員会に再考を求め、決議を9月定例会で可決しました。これは、教育行政の自主性を脅かす不当な政治的介入といわざるをえません。(自民・刷新の賛成)

それに先立ち県議会文教委員会は、9月に高校日本史教科書の採択について調査する異例の閉会中審査を2回にわたって開き、現場の校長を呼んで質したうえで、教科書採択

の再考を繰り返し求めていました。

子どもたちの成長と学力の向上を保障するためには、学校現場の教師集団が実情に即して、最適な教科書を選定することが大切です。生徒の実情に合った教科書を選定した各学校の判断を、県教育委員会が尊重したことは当然です。県議団は「教育現場の自主性を尊重し教育環境の整備に全力をあげる決議」案を提案しました。



9月2日文教委員会閉会中審査後、傍聴に集まったみなさんによって報告会が開かれました。

県民から提出された「高校日本史教科書の採択の再審査を求める決議の撤回」を求める請願は自民・民主・刷新によって不採択となりました。



教科書は誰が選ぶの？

10月12日、所沢市の松井公民館で教科書採択をめぐる緊急市民集会が開かれ、出席しました。講師は、埼玉県議会の文教委員会、県議会を傍聴された、「教育と自治・埼玉ネットワーク」共同代表の元立教大学教授・教育学の藤田昌士先生でした。私も県議会の動きについて発言しました。

最後に、教科書を考える所沢市民の会代表の牧先生から「教科書採択について、政治的干渉を廃し、教育委員会の独立性を堅持することを願う」要望書を埼玉県教育委員会委員長に提出することが提案され、市民集会参加者一同で確認されました。(左写真)

開かれた委員会運営を求めて

9月2日の文教委員会の傍聴希望者が50人を超え、抽選で30人が傍聴不可能に。写真のように、県議会の委員会は県執行部の席が大半を占め、傍聴席がほとんどありません。また委員会は議事録が作成されず、傍聴者には録音も許可されません。



県議団は9月13日「県民に開かれた委員会について」県議会議長と議会運営委員長、各会派に申し入れを行いました。今定例会より、村岡県議が議会運営委員に就任しました。県民に開かれた県議会づくりのため、今後いっそう奮闘します。

ハッ場ダム工期延長など

—9月定例会について

25件の知事提出議案について、党県議団は20件に賛成しました。反対議案の理由は次の通りです。

一般会計と病院会計の本年度補正予算 さいたま新都心医療拠点に総合医局や発達障害児の支援施設等を建設するための負担金が計上されています。これらは、党県議団も要求してきた意義のある施設ですが、県立小児医療センターの移転を前提にしているため賛成できません。

要介護高齢者の施設で障害児学童保育などをできるようにする条例 それぞれの専門性から不可能である

ハッ場ダムの工期延長について 節水と人口減の予測から利水上必要なく、キャサリン台風のような災害には役に立たない同ダムは直ちに中止すべき。

9月30日。党県議が本会議一般質問に
立ち、竜巻や東日本大震災の被災者支援、
消費税の増税・TPPについて、雇用の確

保と賃上げ、県立小児医療センターの移転
問題、精神障害者の施策の充実など県民の
切実な願いを届けました。

党県議が知事に一般質問

竜巻被災者の県の独自補助を

9月に県東部と北部で甚大な被害をもたらした竜巻災害。住居が住めなくなった被災者は県営住宅に入居できます。しかし、学校や仕事の都合から県営住宅ではなく、民間賃貸住宅を希望する被災者がいます。が、賃貸住宅は災害救助法の対象にはならず、国の財政支援が受けられません。

私はこれを市町村が財政支援する場合、県も補助すべきだと申し入れていました。また一般質問でも知事を質しました。



知事は「市や町が独自支援する場合、県として2分の1は用意したい」「国が何らかの形でお金が出ないことがあっても県は絶対にだします」と約束しました。

消費税率の引き上げについては評価する —知事答弁

党県議は一般質問に国の来年4月から消費税率の8%へ引き上げ方針について取り上げました。

県民の所得が減っている中での消費税率引き上げは、本県経済に壊滅的な影響を与えます。来年4月からの引き上げは中止すべきという党県議の主張に対して知事は「税金は

取るな、医療は無料にしろ、福祉は充実しろ、道路は造れ、防災は万全にしろと言っても、なかなか財源の裏付けのないことはできません」として「こうしたことから私は消費税率の引き上げについては一定の評価をしておりますので、反対するつもりはありません」と答弁しました。

党県議「自然エネルギー推進基本条例」の制定を検討すべき」

知事「議員のご提案を生かすべく……基本条例を制定することは検討に値する」

党県議団として地域循環型経済の活性化を明記した条例の検討を提案しました。地域の資源である自然エネルギー政策は、地域の事業者を使い、地域にお金が回る地域循環型ですすめるべきだと考えています。知事もこの点には共感し「検討に値する」と答弁しました。



7月高知県ゆずはら町を視察しました。「雲の上の町」ゆずはらは、総面積の91%を森林が占める自然豊かなまちですが、エネルギー自給率100%をめざし(現在は30%程)、太陽光、風力、水力、木質バイオマス、地中熱利用等様々な自然エネルギーの活用に取り組んでいます。